



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

電気科 電気工事部門

ものづくり
コンテスト

荻原君 最優秀賞で全国へ 作業時間の短縮を目指す

電気科2年生の荻原優月君は5月21〜22日に旭
工体育館で行なわれた第25回高校生ものづくりコ
ンテスト全国大会北海道ブロック大会電気工事部
門で優勝し、最優秀賞を受賞した。



ケーブルをアウトレットボックスに通す荻原君

優勝した荻原君は11月8
9日に徳島県徳島市で行なわ
れる全国大会の出場権を得た。
全国大会では競技時間が30分
短くなり2時間になる。また、
課題はブロック大会から数か
所変更され、木製のパネルに

★旭エ ライフ 相手の話をよく聞く ピア・サポート会長 有馬紗月さん(化2)



趣味は写真撮影

ピア・サポート・トレーニング講
座を月曜日の放課後に小会議室で行
なっている。会員は3年生1人、2
年生3人、1年生2人の計6人。講
座ではペアで背中合わせになって図
の指示を聞いて描く「一方通行と双
方向のコミュニケーション」やすご
ろくのお題で対話を深める「サイコ

ロトーク」などを実施。
ピア・サポートが何かは知らず、
友達が入部しようとしていたので一
緒に入部した。最初はうまく話せな
かったが慣れてきて、自分から話し
かけられるようになった。日常生活
では相手の話をよく聞くようになった。
た。相手との対話で以前は話を聞く
ことができていたように感じていな
かったが、場の雰囲気を考えて話し
合えるようになった。
責任ある立場になったので、皆を
引っ張っていく。会長としてこれか
らは人に頼り過ぎずに進めたい。

とに苦労した。全道大会で優
勝できたのは一本一本の配線
をきれいに伸ばせて、他校の
選手と差別化できたからだ。
全道大会では自分の実力を十
分発揮できたが、全国レベル

工業化学科 化学分析部門

目標は全国大会出場 時間を有効に使う

工業化学科は6月20日に札幌
幌琴似工業高校で行なわれる
第25回高校生ものづくりコン
テスト全国大会北海道ブロッ

に体育館にクーラーが設置される
ことになった。これは旭工が旭川
市の指定避難所になっているため、
避難者の体調管理に使われるもの
だ。大型の室外機2台がクラウン
ド側の体育館外に設置され、体育
館内には冷風が出るダクトが付け
られる。体育館内の工事は8月中
旬から1か月半程度で、期間中は
体育館が半面しか使えない。

有澤事務局長は「生徒の皆さんに
は迷惑をかけるが協力してほしい。
また、重機が入るので体育館周辺
の工事現場には近づかないで」と
語った。



左から大会に出場する余田君、佐藤君、松林君

ク大会化学分析部門に出場す
る。出場者は余田哲平君、松
林寿晃君、佐藤拓海君(全員
2年)の3人。競技内容は2
時間30分で3種類の試料水に
含まれるカルシウムとマグネ
シウムの量を滴定で正確に分
析し、それぞれの硬度と全硬
度を求める。精度や安全管理
などの観点で採点される。毎
日、約1時間練習している。

出場する余田君は「経験を
積むために参加を決めた。競
技時間が短いのでミス無く正
確にできるように意識してい
る。覚える内容が多いので大
変だ。本番では楽しくやりた
い」と語った。

佐藤君は「おもしろそうだったの
と経験のために参加を決
めた。冷静に正確に滴定でき
るよう意識している。滴定で
力を入れすぎて試薬が出過ぎ
ることに苦労している。本番
では焦らず慎重にかつ的確に
したい」と話した。

私は進学することを決め、
合格するために様々な事に取
り組んでいる。取り組みと言
えば「オープンキャンパス」
や「試験勉強」が思い付くが、
受験や就職するにあたって重
要なのは「面接」だ。受験先
は先輩方が多く受けているの
で進路室に報告書があり、c
lassroomで過去の面
接内容が分かる。また、イン
ターネットで検索すると面接
情報がたくさんあるので参考
になる▼面接では受験校につ
いて調べ、どのような人材を
必要としているかを知ること
が大切だ。また、自己PRや
将来になりたい人物像など、3
年間の自分を振り返り、これ
から何をすべきか見つめなお
すことも必要になってくる▼
3年生にとって1学期の期末
考査は評定が決定する最後の
テストだ。今までのテストは
あまり納得のいかない点数で、
評定もかなり思わしくないも
のだった。いつもは緊張によ
るケアレスミスで点数を下げ
ているため、自信がつくまで
勉強している。評定を上げる
ため、小テストではできるだ
け満点を取りたい▼受験校に
よって試験内容が異なってい
るので、試験科目を把握して
対策する。数学IAは1年生
のときに教わった。しかし、
参考書に目を通した部分は習
ったことの無いものだった。過
去問題や問題集を繰り返し解
き一つずつ知識を身に付けた
い▼受験先が決まったとして
も、不安なことがあると思う
だが、夢の実現のために頑張
りたい。(化3杉野)



工具箱



左から入賞した川上君(情2)、宮島君(電3)、佐久田君(情3)

4年連続 優勝

サーブミスが減らす

バレー部

高体連旭川支部予選が5月14日～6月1日に行なわれた。支部大会で全道大会出場を決めた運動部と高文連全道大会に出場する放送局について、支部大会の感想と全道大会へ向けての取り組みと意気込みを今号と次号で紹介する。

バレーボール部は5月21～23日に旭川北高校と旭川実業高校で行なわれた北海道高等学校総合体育大会バレーボール競技大会旭川支部大会に出場し4年連続で優勝した。優秀選手に安田伶夢君(機3)、宮本徒夢君(土3)、三上銀士君(情3)が選ばれた。バレーボール部は6月10日～13日に帯広市で行なわれる全道大会に出場する。

部長の大澤伶夢君(機3)は「大会ではチーム全員が勝とうという気持ちで頑張った。優勝はうれしいが、サーブミスが多くよくない内容だった。全道大会があることを考えるとあまりいいプレーができず、改善点が見つかった。前回の全道大会ではベスト4だったので今回もベスト4以上を狙いたい。サーブを中心に、簡単に取れるボールを決める練習をしていきたい。チームの完成度を高めて、全員が悔いのない試合をしたい」と反省と抱負を語った。



優秀選手に選ばれた3人と大澤部長

優秀選手の安田君は「自分たちのミスで得点を落としてしまうなど改善点が多く見つけた。個人でもチームでもよりレベルアップをしたい。メンタルを保って声だしなどでチームを引っ張れるようになりたい。全道大会に向けてチームでの攻撃とレシーブの

放送局 2部門が全道出場

名刺をテーマに研究

放送局は5月14～15日に旭川市民文化会館で行なわれた第72回NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会上川地区大会アナウンス部門、創作ラジオドラマ部門など4部門に出場した。アナウンス部門では宮島佳汰君(電3)が5位、研究発表部門では川上大地君(情2)と佐藤想汰君

宮島君は「出場するすべての部門で全道大会出場を目指した。アナウンス部門では、かまないように注意し音量調整を意識した。テンションを上げながら元気に話した。全道大会では入賞を目指し頑張りたい」と話した。

川上君は「名刺の電子化という身近な物を研究するため難しい言葉をいかに分かりやすく伝えるかに苦労した。途中で話す順番を間違えてしまったが、聞き手を飽きさせないよう話せた。他校は問いかけが多かったので参考にして全



賞状を持つ部長の竹内君(前列中央)

道大会に臨みたい」と語った。佐藤君は「発表ではパソコン操作を担当した。緊張したが、発表者とうまく連携できた。全道大会では落ち着いてテンポを上げて発表したい」と話した。

佐久田君は「バス内のマナーを改善させるというテーマで制作した。バスを貸し切って運転手に取材したので新鮮な感覚だった。秋の高文連に向けて制作者と編集者と考えのかけ離れが起きないよう報告、連絡、相談をしっかりとしたい」と語った。

湯浅君は「支部大会では得意な裏投をかけることができて良かった。積極的に技を仕掛けにいけなかったのが反省点だ」と話し、全道大会の個人戦では「ベスト16に入りた

柔道部 団体と個人2人が全道へ

勝つ意識で臨んだ

柔道部は5月15～16日に東光スポーツ公園の武道館で行なわれた第75回北海道高等学校柔道競技大会旭川支部予選

会に出場した。竹内空君(電3)、稲垣椋也君(土3)、笹川英慈君(土2)、桑田悠叶君(土2)、湯浅直君(建

練習をしていく」と話した。宮本君は「攻撃は順調だったが、サーブミスが多く連続得点ができなかった。全道大会では攻撃でも守備でもチームに貢献したい。サーブを中心に練習して、チーム全体でレシーブを強化していく」と語った。



ベスト8の岩崎君(左)と古屋君

ソフトテニス部 古屋・岩崎ペアがベスト8

逆クロスの精度を上げる

ソフトテニス部は5月14～16日に花咲テニスコートで行なわれた第78回北海道高等学校ソフトテニス選手権大会旭川支部予選に出場し、ダブルスで古屋大地君(機2)・岩崎駿介君(機1)ペアがベスト8に入り、6月2～5日に旭川市で行なわれる全道大会出場を決めた。

古屋君は「緊張せずに練習通りのプレーができた。相手の後衛を動かして、空いたコースにしっかり打ち込めたのが良かった。勝ち急いで冷静な

プレーができずネットをすることが多かったのが反省点」と話した。また全道大会では「一試合でも多く勝ちたい。練習で得意な逆クロスの精度をもっと良くし、苦手なバックハンドをうまく打てるようにする」と抱負を語った。

岩崎君は「試合では調子が良く、ボレーでうまく相手を動かせたのが良かった。後ろに下がったときにミスが多くなったのが反省点」と話した。また全道大会では「試合に全力で臨み、練習の成果を生かしたい。これから練習で逆クロスやバックボレーの精度を上げ、点を決められるようにする」と語った。